



昭和48年12月1日 No. 249
編集と 鹿兒島県肝属郡大根占町役場
発行 総務課文書広報係
電話 [09942] 2-0511-0515
印刷 さかせがわ印刷所 電話 2-0140

中学校 特集号

町立中学校統合計画は

諸般の情勢から延期します

町長 坂元 左武郎

中学校統合計画の問題は、ここ数年来本町の町政の上で最も重要な課題として、町民みなさんの関心も深く、いろいろ御助言、御配慮をいただいていた問題であります。

行政のあり方として、行きづまった状況に追い込まれてから、対応策を考えるということではなく、将来を展望し、そのみとおしのもとに対策を講じて行くことが最善の道であることはいうまでもありません。

今回の中学校統合計画はその意味で、将来の急激な生徒の減少をみこし、これによって生ずる問題は何かを充分、検討し計画を策定して、その推進をはかったものであります。

わたくしとしては、町民みなさんが本町中学校教育の将来を充分お考えいただき、どのような形にしても御了承いただけるものと信じ、進めてまいりました。しかしながら以下申し上げるような諸般の状況は、現時点で中学校統合計画を推進するには、極めて困難な情勢にあると判断いたしました。この際は統合計画を延期し、将来の問題はみなさんとともにじっくり検討することにしたと決意しました。

昭和四十三年六月将来の急激な生徒減少を予測して、中学校統合計画が発足し、本町の中学校教育のあり方について検討をはじめました。

翌四十四年には町条例により町立中学校統合計画推進協議会を設置し、中学校の統合計画についていろいろな面から研究討議を重ねていただきました。

その結果、昭和四十五年二月に中間報告、昭和四十七年九月には中学校統合計画問題に関する答申をまとめたのであります。

この間において、推進協議会では統合計画についての研究、すでに統合計画を実施した町村の調査、各部落での座談会、アンケート調査を実施され、またこれらの経過は町報などを

通じてお知らせしてまいったとおりであります。

答申の内容を要約しますと

1、現在の四つの中学校を一緒に統合計画すること。その位置は、いろいろな関係から現在の大根占中学校の位置附近とすること。

2、遠距離通学生徒の対策として、スクールバスの運行自給車の購入補助などを行ない父兄の負担がなるべくないようにすること。とくにスクールバスの運行経費は、全額町で負担すること。

3、統合計画の時期は、昭和五十年四月を目途とする。

一年四月を目途とする。

というようにものであります。私もこのようにしては、この答申をもとに中学校統合計画の実施計画案を作成、大根占

いられれば賛成する。たとえば、スクールバスを各部落を経由して運行してもらいたいなど。

この間、文部省は学校統合計画によって紛争が発生している現状に鑑み「学校統合計画問題について慎重な対応を望む」旨の通達を発しました。また町内の一部の地域では統合計画の反対の気運が強く、署名運動を行なうなどの動きもあるやに聞いております。

これらの情勢の中で、私は町議会の全員協議会、中学校統合計画推進協議会の御意見を承わった上で、次のような情勢判断のもとに冒頭に申し上げましたように、中学校統合計画を延期することにいたしました。

1、現在では各中学校とも、なお相当数の在籍生徒数があり、校区住民の学校に対する愛着心が強く、これは一面教育に対する関心の高さを示すものであります。が実感として、統合計画の必要性について全面的な了解が得られにくいこと。

2、通学対策について現在の財政制度のもとですべての地区住民の要望を充たすことは、財政上非常に困難な事態を招くことが予想されること。

3、現在一部の地区で反対運動が進められているやに聞き及んでいますが、統合計画に限らず、町政は住民多数の合意の上に進められるべきであり、徒らに事態を紛糾させることは、町政全般によくない影響を及ぼすおそれがあること。

以上であります。一方では諸般の客観情勢が現時点で学校統合計画を推進するには必ずしも適当でない状況にあると考え、五十一年度一統合計画を目途とした今回の統合計画の実施を断念することにした次第であります。

教育の問題は、町行政の中でも特に長期の展望の上に立つて、慎重に対処すべき問題であると存じます。

過疎化の現象はひとり本町だけではなく、県下の多くの町村は同じような悩みをもっています。このような傾向をなるべく最少限度にとどめるよう私も地場産業の振興企業の誘致など努力を重ねていますが、なかなか力足らずして意の如く運ばず、この上ともみなさま方の御協力をいただき、さらに地道に努力いたしたいと思っております。

ただ児童生徒数の減少は、現に学校に在籍し、またはすでに生まれている幼児の数を基礎に推計すると年々激減することは明らかです。次代を担う子供への教育は、いつの時代でもゆるがせにすることはできません。したがって本町の中学校教育をどのようにすべきであるか、今後とも町政の重要課題としてみなさまとともに考えてゆきたいと存じます。

将来教育関係の諸制度も社会情勢の変遷とともにかわってゆくでありましょう。わたくしどもとしても適切な教育がなされるよう、関係当局に政治的に働きかけて行く努力

をすべきことも当然であります。

しかしながら、わたくしは中学校教育の根本理念に変わりはないものであり、そして生徒数は減らないことが望ましいことではあります。が、前述のように現実には生徒数が激減する傾向にある以上、中学校の統合計画はどうしても将来やらないわけにはいかないだろうと考えております。

このような意味でここ数年

来、中学校の統合計画について問題を提起し、町民みなさまとともにいろいろな角度から検討を重ね、御意見を寄せていただきましたことは、将来のために大いに役立つことになるかと存じます。

また、中学校統合計画を前提とした形で町行政を進めてまいりました関係上、いろいろな分野において影響を与えていたことは、否めない事実であります。わたくしの不徳のいたすところ御迷惑をおかけした面もあるかと存じます。それらの点については、深くお詫び申しあげるとともに、中学校統合計画をこの際延期することについて、みなさま方の御了解をお願い申し上げる次第であります。

これまでに到る御尽力に対し、深く感謝申し上げますとともに、この上とも町行政各般にわたりみなさま方の一層の御協力をお願いいたします。